

2年目の実施となる「ボーイスカウトと遊ぼう！ ワクワク自然体験あそび」ですが、みなさんの団ではご計画いただいているでしょうか。地域に根付いたスカウティングを展開するためにも、是非、開催のご協力をお願いします。

今号では、この事業を実施する上でのポイントをご紹介します。みなさんの団で実施する際の参考になれば幸いです。

POINT1 スカウトを中心とした運営

司会進行、参加児童グループのリーダー、受付担当など参加者側から見える主な役割は、ローバースカウトを中心にベンチャースカウト、ボーイスカウトに任せ、指導者は裏方に徹してみても如何でしょうか。

また、参加児童と活動を共にしたスカウトが、自らのスカウティング経験談を保護者に話す時間を設けることも効果的です。

POINT2 受付後の時間の有効活用

受付開始前から、指導者とスカウトでゲームをして、楽しい雰囲気の中で参加者を迎えてみては如何でしょうか。受付後、セレモニーまでの間は、ただの待ち時間になるケースをよく目にしますが、受付後、このゲームに参加児童も加わることで、適度のアイスブレイクになります。

POINT3 親しみやすいセレモニー

セレモニーでは国旗儀礼やソングを省略して、スカウトが進行するなど、親しみやすい雰囲気で行ってみても如何でしょうか。

また、「朝の言葉」などの挨拶も長くなり過ぎないように充分注意する必要があります。スカウトが参加児童に「歓迎の言葉」を伝える場面があっても良いかもしれません。

POINT4 保護者にもスカウトと同じ体験を

せっかく、体験活動に参加してくれたのですから、親子で過ごす時間よりも参加児童とスカウトと一緒に過ごす時間を多く取りたいものです。

保護者には、保護者だけでグループを作り、参加児童と同じ体験を提供し、そのプログラムのねらいを説明することは、保護者にスカウティングの魅力を伝える効果的な手法といえます。

POINT5 毎回の隊集会在自然体験あそび

「野外を教場」としている私たちの活動は、いつもの隊集会在まさに「自然体験あそび」です。特別な「イベント」をやるのではなく、「いつもの隊集会在」で「地域の子」と「遊ぶ」という意識で実施してみても如何でしょうか。

そうすれば、指導者のみなさんに負担も少しは軽くなるのではないかと思います。

POINT6 大切なアフターフォロー

体験活動の終了後に、「保護者アンケート」を実施し、参加した保護者の生の声を聞くということは、さらに体験活動を良くするためには欠かすことのできないものです。

入隊を見据えて、アンケートには「今後、活動の案内を希望しますか」という項目を設け、希望者には引き続き案内できるように布石を打つことも大切です。

令和3年11月30日現在の会場登録数など

26県連盟から**203**会場の登録があり
(最多は愛知連盟の**67**会場、次いで神奈川連盟の**23**会場)、**119**会場で**2,760**人の参加申込みがありました。

団支援・組織拡充委員会では、各団で今年度も「ボーイスカウトあそぼう ワクワク自然体験あそび」に取り組んでいただけるように、不定期に様々な情報提供を提供していく予定です。

自団での展開例など全国の団に共有したい情報があれば、是非、日本連盟にお知らせください。

→taiken@scout.or.jp